

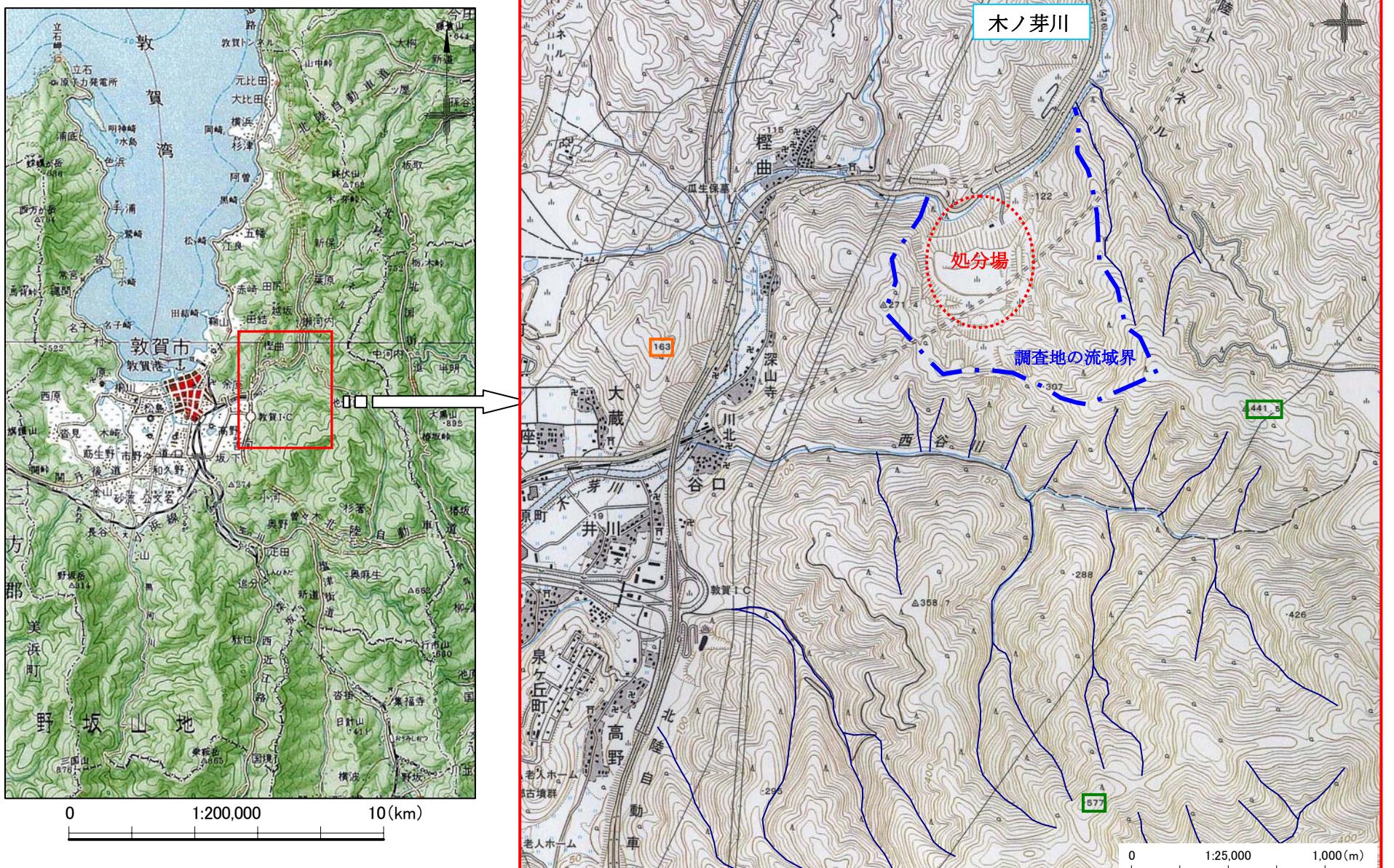
敦賀市民間最終処分場環境保全対策協議会資料

平成 17 年 1 月 22 日

目 次

1. 既往文献調査	1 - 1
2. 現地調査	2 - 1
2.1 調査内容	2 - 1
2.2 高密度電気探査	2 - 3
2.3 ボーリング調査	2 - 6
2.4 まとめと今後の課題	2 - 10
3 対策基本方針について	3 - 1
4 今後の調査について	4 - 1

1. 既往文献調査

検討項目	要 点	備 考
(1) 地形・地質	<p>(1) 地形</p> <p>処分場を中心とする広域および周辺の地形を、図-1.1.1に示す。</p> <p>本調査地は、敦賀市の市街地東方約4kmの山間部に位置する。処分場の北端を流れる木ノ芽川は、敦賀市内に注ぐ主要な河川の一つで、鉢伏山（△762）にその源を発し、緩やかに蛇行しながら敦賀市内まで南南西に流下する。</p> <p>処分場は、木ノ芽川の左岸側に位置する。周辺山体の尾根筋は標高400mから500m程度で、主要な河川、谷沿いには急峻な斜面が形成されている。一方、右岸側の山体尾根部の標高は150～200mで、左岸側と比べるとなだらかで起伏量が小さい。</p> 	<p>図-1.1.1 調査地周辺の地形</p> <p>出典 [左図] 1:200,000地勢図 岐阜 国土地理院(1990) [右図] 1:25,000地形図 敦賀 国土地理院 (2004)</p>

1. 既往文献調査

検討項目	要 点	備 考
(2) 地質	<p>(2) 地質</p> <p>処分場周辺の広域地質を、図-1.1.2※1に示す。調査地周辺は、日本列島の地帯構造区分上「美濃一丹波帯」に位置し、堆積岩コンプレックス（泥岩を基質として様々な種類の岩石が混じり合ったもの）と火成岩類（花崗岩）が広く分布する。</p> <p>調査地周辺の堆積岩類は、海洋プレートの沈み込みの過程で形成された「付加体」と呼ばれ、調査地付近に分布する地質は檍曲コンプレックスと呼ばれる混在岩である。檍曲コンプレックスは、中生代ジュラ紀※2に形成されたもので、頁岩を主体とし砂岩、チャート、石灰岩などが岩塊として混在する。</p> <p style="text-align: right;">凡 例</p> <p style="text-align: right;">出典 栗本ほか (1999) 敦賀地域の地質. 地域地質研究報告 (5万分の1地質図幅). 地質調査所</p> <p>※1 栗本ほか (1999) 敦賀地域の地質. 地域地質研究報告 (5万分の1地質図幅) に一部加筆</p> <p>※2 ジュラ紀: 146~208 Ma (Ma: 百万年) 新版地学事典, 地学団体研究会 (1996) による</p>	<p>図-1.1.2 調査地周辺の地質</p>